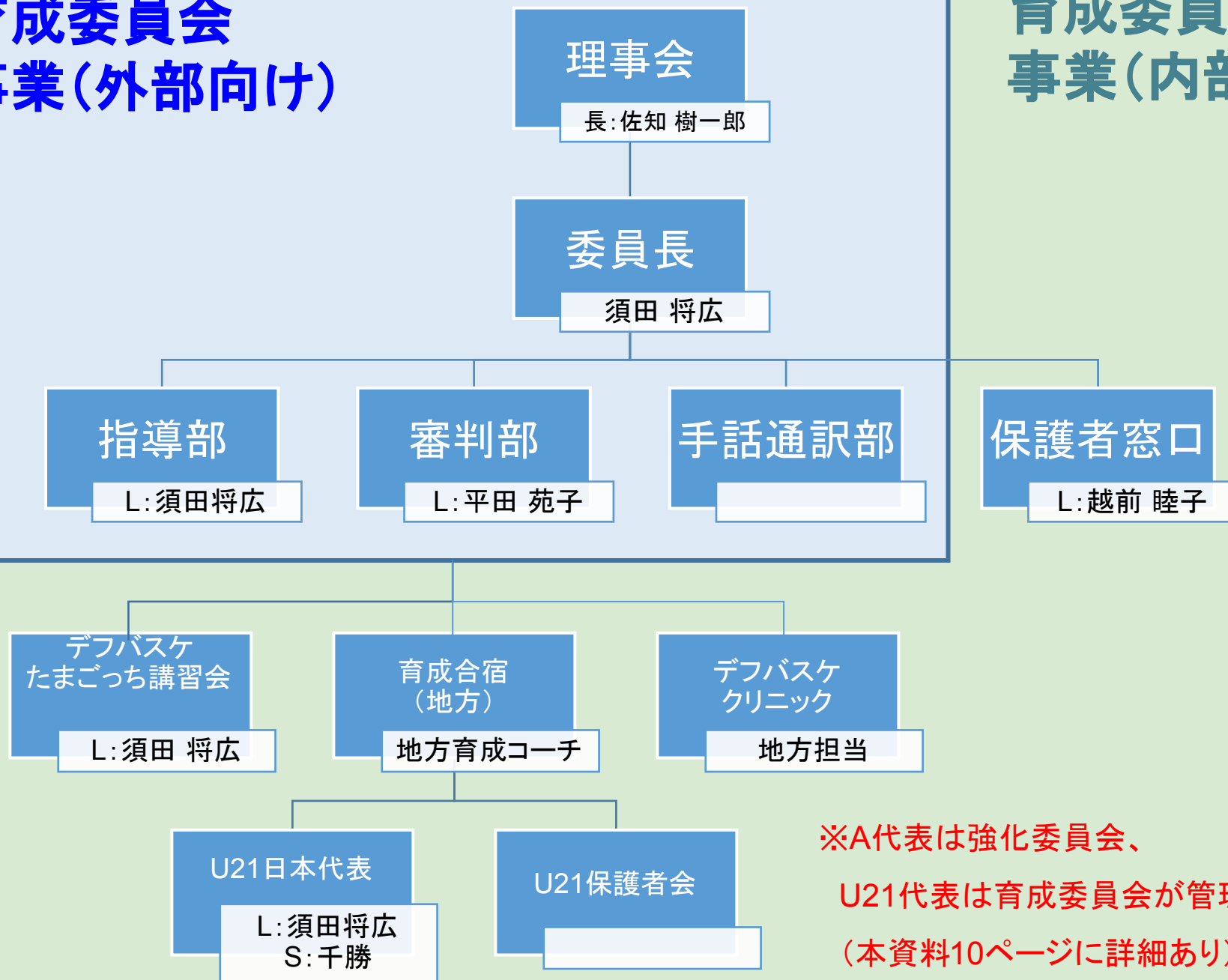


育成委員会 組織図(案)

特定非営利活動法人 日本デフバスケットボール協会

ジェネラルマネージャー 須田 将広

**育成委員会
事業(内部向け)**



※A代表は強化委員会、
U21代表は育成委員会が管理する
(本資料10ページに詳細あり)

指導部

- リーダー: 須田 将広
- メンバー:
- 業務内容:
 - デフを深く指導できる指導者の育成メニュー考案と標準化
 - U12～U21育成選手の育成メニュー考案と標準化
 - サインバスケの普及と発展につながる活動(デフバスケたまごっち講習会)

※Deaf: 主に視覚を活用した対話で社会生活をしているデフ

審判部

- リーダー: 平田 苑子
- メンバー: 廣島 美子、嶺藤 至、須田 将広
- 業務内容:
 - デフバスケにおける審判の定義(通常の審判との差別化)
 - 声出しバイオレーションの標準化
 - デフ審判の育成(デフバスケたまごっち講習会)

手話通訳部

- リーダー:
- メンバー:
- 業務内容:
 - デフバスケットにおける手話通訳者の定義化(通常の通訳者との差別化)
 - 例)試合における手話通訳者の必要性、T.Oなど試合要員の情報保障について等
 - バスケット競技に精通した手話通訳者の育成(デフバスケットまごっち講習会)

保護者窓口

- リーダー: 越前 睦子
- メンバー: 中嶋さん、榎本さん、原重さん(理事)
- 業務内容:
 - U12～U21育成選手の保護者同士の情報交換(LINEグループ活用)
 - LINEグループ追加権限は越前さんのみ、片親のみとするなどルール化
 - 子供のバスケ環境で悩む親の相談窓口(ホームページからのメール等)

デフバスケたまごっち講習会（全国育成合宿）

- リーダー：須田 将広
- メンバー：山田、三瀬、嶺藤、橋本、廣島、千勝、野口
- 業務内容：
 - アンダーカテゴリを含む全国のデフ選手の競技力向上
 - サインバスケのクレオール言語化（現場実践、ワークショップなど）
 - デフ選手を深く指導できる指導者の育成
 - 声出しバイオレーション含む、デフバスケを深く理解した審判の育成
 - デフバスケ競技に精通した手話通訳者の育成

デフバスケットボール・クリニック

- リーダー:
- メンバー:
- 業務内容:
 - 外部から講師を招いてバスケット競技力向上を狙った企画
 - 元含むプロ選手、元含む監督などを招待する
 - バスケットに精通した手話通訳者の育成にもなる(講師の意図を掴む)

育成合宿(地方※)

- リーダー: 須田 将広

- メンバー: 育成コーチ

- 業務内容:

- U12,U15,U18,U21カテゴリの選手を中心に育成する
- 育成方針は統一すること(U21世界選手権チームビルディング視野)
- 「Deaf※」としての自覚からサインバスケを理解する

※地方ブロックごとに育成合宿を実施し、
そのときの育成コーチの中から、

U21日本代表監督を推薦する形を検討する
(大会でデフチーム指導歴があることも必須条件)

※育成合宿の全国版は

「デフバスケたまごっち講習会」とする

※Deaf: 主に視覚を活用した対話で社会生活をしているデフ

U21日本代表①

- リーダー: 須田 将広
- メンバー: 保護者スタッフ
- 業務内容:
 - U21デフバスケ世界選手権に派遣する日本代表チームの統括(人事、会計、合宿)
 - 日本代表チームビルディングプランの考案、U21育成強化合宿の開催
 - U21選手の自己負担を軽くするための活動(助成金など)
 - U21選手の保護者で構成した「U21保護者会」との協力体制を構築
 - 保護者スタッフの精度を導入を検討(しっかりとしたルールを作る必要あり)

U21日本代表②

- 強化委員会との棲み分けについて
 - 強化委員会はA代表、育成委員会はU21代表を担当
 - U21代表でも、A代表に選ばれている選手はA代表優先で問題ない
 - 原則、U21世界選手権に参加したい場合はU21合宿に参加必須
 - 選手が自分の意思で参加を決める(上からの強制はしない)
 - 詳細は、強化委員会と検討するが、最終的には理事会が決定する